

到彼岸に想う

彼岸は、墓参りをして先祖を供養することが日本の麗しい光景である。しかし、その本意を知るものは少ない。

彼岸は正しくは「到彼岸」、つまり此の岸から彼の岸に「私」が到ると言うことである。娑婆の一面識から言うところの世からあの世である。ご先祖様はあつちに行つたけど私はまだこつちにいる。いづれは私も逝くけどまだ早い。いつまでもこの世に未練がある。苦楽に翻弄され生死の迷いの海から出ようとしめない存在、それが「私」である。

仏の教えに照らしてみると此岸は欲界と言う娑婆濁世、彼岸は仏が示す浄土の悟りである。その間には途方もなく越えがたい「私」という壁がある。仏教はこの壁を問題にする。

真宗では先に他界した者を先達と言う。自分よりも先に行つたからだ。人は仲間と言う社会を互いの様子をうかがいながら自らの行動を決して行く。身体を滅して行くときには、その様子を先達に聞くしかない。しかし、先祖先達はもう居ない。だから、仏に聞くしかないと言うことになる。これが彼岸の仏事を勤める本意である。

今年も三月に彼岸会が勤まる。先祖の供養を縁にして、「私」の命のありようとその行く末を仏さまの智慧を載いて訪ねてみよう。

龜山本徳寺住職

龜山本徳寺春彼岸会のご案内(20日、22日)

煩惱に覆われた娑婆世界の真つ只中で、終生、問題とされ、目覚めてほしいと願われている仏に出会うこと：生死を越えていく私を発見することができるかもしれない。何よりも、この仏縁を慶ばれた方に親鸞聖人がおられる。本徳寺有縁の皆様方に、お彼岸会のご案内を申し上げます。お誘い合わせご参詣下さい。

今年から都合により中日を缺む3日間に限らせていただきます。彼岸供養のお経付けは随時受け付けます。

3月20日・21日・22日

午前七時 晨朝勤行・引続き法話

午前十時 門信徒勤行・引続き布教

午後一時 彼岸会勤行・引続き布教

布教 朝来・極楽寺 帆保真澄師

龜山本徳寺春彼岸後の行事予定

本坊永代経法要 4月13日・14日

本坊永代経法要 4月21日・22日

本坊蓮如忌法要 5月12日(日曜日)

麗姫会・降誕会 5月21日(火曜日)